

第一級洋画家・日本画家・漫画家・挿絵画家…
総動員の「画^かき下^おろし」挿^さ画^しによる
《超豪華・贅^{ぜい}沢^{たく}・唯一無比》名作文学全集

「この全集のために」
錚々たる画家が画き下ろし
「挿^さ画^しは独立した作品である！」を
宣言・実証した
日本の出版美術・挿絵文化史上に
燦然たる光彩を放つ大金字塔——
《知る人ぞ知る》超豪華挿画全集！



複製版編集 上 笙一郎

名作挿画全集

さしえ

全6巻
別巻1

明治・大正・昭和初頭
多くの人々に読まれた名作文学の名場面を
いま再びの感動をもって堪能する！

こんな贅^{ぜい}沢^{たく}
二度と実現できない！

学術資料出版

大空社出版

さしえ

名作挿画全集

全6巻
別巻1

複製版編集
上 笙一郎

挿画^{さしえ}をじっくり鑑賞しながら名作文学が読める
《唯一無比》の全集 出版美術史上の不滅の金字塔

●明治・大正・昭和初頭、多くの人々に読まれた名作文学の名場面が一堂に会する。

小説・詩歌・股旅物・講談・現代風俗・義理と人情・情痴・児童・冒険・怪奇・探偵・推理…

ユーモア 苦悩 悲哀 美人画 モダニズム…

第一級洋画家・日本画家・漫画家・挿絵画家総動員の
豪華「画き下ろし」挿画

●「この全集のために」画き下ろした、ここでしか見られない作品ばかり。

新聞・雑誌に掲載済の挿絵を単純に集めたものではない貴重作品集。

画・文二重奏の興趣、ここに極まる！

●いま再びの感動をもって名作を堪能する。

優雅 艶美 抒情 可憐 痛快 豪壮 熱情 頹廢 懊惱 滑稽…

(収録挿画より)

*収録画家・作品は
6・7ページに掲載



初の挿絵美術の穫入れとりのい——重要な資料的価値

かみ しょういちろう
上 笙 一 郎
(児童文化・生活史、挿絵研究)

〈挿絵〉は英語では〈イラストレーション〉であり、その意味は、前者は文学的な作品に〈挿しはさまれた絵〉、後者は文学作品の内容を〈照明するもの〉というものであった。

しかし、たとえば日本の平安時代より作られた『源氏物語絵巻』をはじめとする絵巻物や、フランス十九世紀文学におけるヴィクトル・ユゴーの小説『レ・ミゼラブル』のイラストレーションなどを見るなら、文学作品と挿絵とは、〈主従〉ではなくて〈等価〉の関係にあると言わなくてはならないだろう。そして、近代を経過して二十一世紀に入つた今日では、絵本やアニメーション芸術の突出ないし確立もあって、挿絵・イラストレーションを文学従属の文化と見る観方は後退した。挿絵・イラストレーションは、今日、文学と対等のものとして確信されるように成つて来ているのである。

そういう挿絵・イラストレーションであるのだが、その認識と作品的な穫入れは、ほとんど為されて来なかった。『古事記』『万葉集』にはじまる日本文学作品の集積は、明治期

このかた幾度もこころみられた。けれども、それらの〈文学〉作品に随伴していた〈挿絵美術〉の穫入れには、何故か全く心が及ぼされなかったのである。

かかる状況のなかで、初めて〈挿絵美術〉に心を掛けたのが、平凡社版『名作挿画全集』(一九三五〓昭和10〓三六〓11年)であった。明治期より昭和戦前期までの挿絵画家の代表的な作品を集めており、近代日本における〈挿絵美術〉の歴史は、この全集を措いて見かつ考えることは出来ない。

特記すべきは、附録「さしゑ」十二冊。明治期このかたの挿絵画家たちが、随筆・随想のうちに、みずからの生い立ち・絵の学び・師匠の思い出・作画の思想や態度・ジャーナリズムとの関係などを語っており、挿絵画家研究・挿絵史研究に関しての文献的な宝庫と言ってあやまたない。

複製『名作挿画全集』が、日本の美術史、取り分け挿絵研究にたゞさわる人に、また文学研究者の眼にも止まって役立つことを、さらに研究のためではなく、諸家の挿画そのものを鑑賞されることを願う。

2014・10

研究資料に、鑑賞・楽しみに、書架に備えたい愛蔵版

美術・文学・漫画・デザイン 印刷・出版・ジャーナリズム 大衆文化・社会・世相・風俗…

*複製版『名作挿画全集』(I~VI・別巻1)は、
『名作挿画全集』全12巻、附録「さしゑ」全12号
(平凡社、1935・昭和10年~1936・昭和11年)
を複製したものです。【大空社2014年10月刊】
原本の2巻ずつを合本しI~VIの構成とし、
別巻に附録「さしゑ」、解説・目次・索引を収録しました。



名作挿画全集

全6巻
別巻1

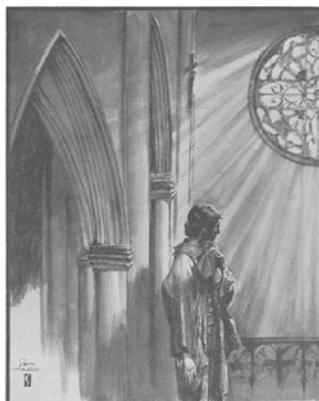
◆ 志村立美・画 〈林不忘「丹下左膳」〉より

「チヨビ安を連れて司馬寮の焼跡に現はれた丹下左膳。伊賀の暴れん坊源三郎が焼け死んだとは……フン、この火事はどうやら臭えぞ」



*ここに掲げた見本は実際の収録挿画の一部です。どの作品も原作を味わうに十分な数の名場面・カットが展開され、まさに「見て・読めて・楽しめる」挿絵文学全集となっております。

◆ 岩田専太郎・画 〈菊池寛「明眸禍」〉より



高島華宵
武内桂舟

長田幹彦「祇園夜話」
「嘆きの夜曲」
〈明治大正名作挿画集〉

竹中英太郎

▼桂舟思ひ出話
▼江戸川乱歩「陰獣」
▼「陰獣」因縁話

竹久虹之助
竹久夢二

▼父夢二に就いて
▼竹久夢二挿画
▼林芙美子「愛情」

田代光

▼僕と挿画

橋小夢

▼十一谷義三郎「唐人お吉」
▼「唐人お吉」挿画後記

立野道正

▼水谷まさる「涙の拍手」

田中比左良

▼中野実「女軍突撃隊」
▼近世娘十態

▼僕の通俗弁一重に後進画学青年の為に
／ダンスホールにて

田中良

▼菊池寛「第二の接吻」
▼挿画の仕事

谷洗馬

▼騎士十二ヶ月・義家

月岡芳年

▼〈明治大正名作挿画集〉
▼菊池寛「妖麗」

寺本忠雄

▼挿画の持つ社会的意義

堂本印象

▼里見淳「道草」

富岡永洗

▼村上梢風「巷説時雨双紙」
▼三上於菟吉「毒婦一国凶」
▼土師清二「恋施餓鬼」

富田千秋

▼〈明治大正名作挿画集〉
▼菊池寛「良人ある人々」

富永謙太郎

▼菊池寛「父帰る」
▼海音寺潮五郎「青空街道」
▼久米正雄「龍涎香」

中川一政

▼内あけ話
▼尾崎士郎「人生劇場」

中村岳陵

▼挿絵について／カット
▼三上於菟吉「妖艶飛鳥剣」
▼「春宵狐若衆」

中村研一

▼挿画制作の妙諦／挿絵と時代考証／挿
▼絵画家たらんとする者へ
▼岡田三郎「春の行列」
▼私の挿画



名取春仙

▼長谷川伸「雪の渡り鳥」
▼私の純文芸挿画時代回顧

林唯一

▼久米正雄「月よりの使者」
▼牧逸馬「地上の星座」
▼挿絵画家志望者へ

落谷虹児

▼〈明治大正名作挿画集〉
▼抒情画譜

福岡青嵐

▼直木三十五「合戦」
▼挿画略歴

布施長春

▼湊邦三「天保小唄峠」
▼夏目漱石「坊つちやん」
▼蕪村俳句

細木原青起

▼想ふまゝを／俳画とさしゑ

松野一夫

▼新東京五景

右田年英

▼小栗虫太郎「黒死館殺人事件」
▼〈明治大正名作挿画集〉

水島爾保布

▼勞山道士「聊齋志異」
▼画師と彫師

水野年方

▼〈明治大正名作挿画集〉

嶺田弘

▼広津和郎「女給」
▼中村武羅夫「白蛾の舞」
▼春仙礼讃記

宮川曼魚

▼三角寛「丹沢山悲炎記」
▼菊池寛「三家庭」
▼山窩をたづねて

宮本三郎

▼山窩をたづねて

村上松次郎

▼平田晋策「南海の軽騎兵」
▼広津和郎「青麦」

梁川剛一

▼廣津和郎「青麦」

* 各巻に付いていた(古書でなかなか揃わない)全12冊をあわせて複製収録しました[別巻。モノクロ1色]。

* 画家・作家が経験談・想い出・批評などを語った挿画美術・印刷・出版史の貴重資料であり、また挿画作品の投稿も実施され、入選者には後の著名作家の名が連なります。

◎この「収録画家・作品一覧」の「▼」は「さしゑ」収録のものです。

●別巻内容●

[解説] 上笙一郎「平凡社『名作挿画全集』の意義：その出版美術史上の位置づけ(挿絵の歴史とその画風/平凡社と編集者・古河三樹松/附録雑誌「さしゑ」の重要性など)
[総目次/作者別作品索引]

【座談会】近代女性美を語る

岩田専太郎・小田富弥・加藤まさる・斎藤五百枝・林唯一・細木原青起・山六郎
(第9号・昭和11年4月収載)



(原本書影)

矢野橋村

▼長谷川伸「紅蝙蝠」

山川秀峰

▼瀬戸英一「二筋道」

山口将吉郎

▼吉川英治「胡蝶陣」
▼「月笛日笛」
▼行友李風「月形半平太」
▼挿画について

山口草平

▼大仏次郎「大久保彦左衛門」
▼共通を避ける苦心(挿絵画家打明け話)

山村耕花

▼短歌

山六郎

▼浜本浩「十二階下の少年達」
▼本の装釘とカット／さしゑ問答

吉田貫三郎

▼片岡鉄兵「花嫁学校」
▼最近の僕

吉野二郎

▼林芙美子「白鳥」
▼抒情挿画

渡辺郁子

▼加藤まさる「抒情詩」

渡部審也

▼〈明治大正名作挿画集〉
▼挿画小言



豪華・贅沢・唯一無比! 「^か「^お画き下ろし」^{さしえ}挿画」名作文学全集

さしえ

名作挿画全集

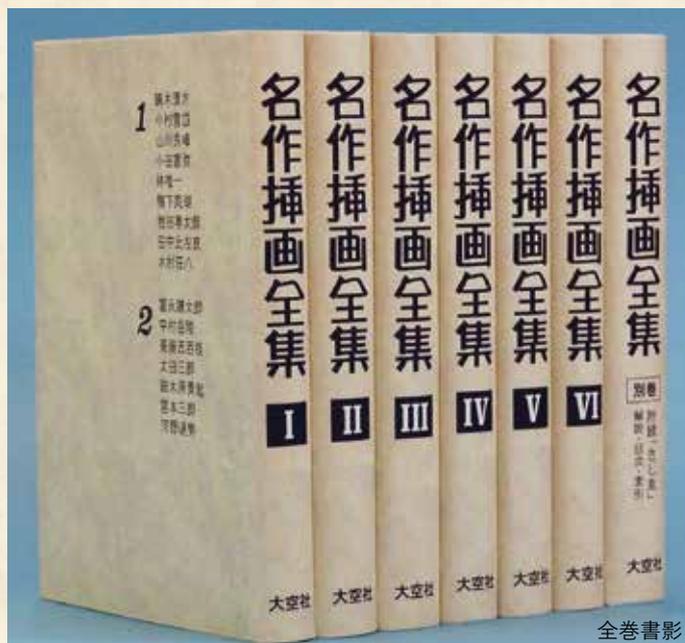
全6巻
別巻1

複製版編集 上 笙一郎

第一級洋画家・日本画家・漫画家・挿絵画家総動員

この全集のために画き下ろした^{さしえ}挿画が織りなす

出版美術史上の不滅の大金字塔



明治・大正・昭和初頭
多くの人々に読まれた
名作の名場面を
いま再びの感動をもって
堪能する!

研究資料に、鑑賞・楽しみに、
書架に備えたい愛蔵版

美術・文学・漫画・デザイン
印刷・出版・ジャーナリズム
大衆文化・社会・世相・風俗…

名作挿画全集

ISBN978-4-283-01309-4

[大空社 2014年10月刊]

A5判・上製(本文モノクロ1色印刷)
第1~6・各巻平均330頁・別巻500頁

全6巻・別巻1

揃定価(本体100,000円+税)〈分売不可〉

*本書は、『名作挿画全集』全12巻、
附録「さしえ」全12号(平凡社、1935・
昭和10年~1936・昭和11年)を編集複製
したものです。

学術資料出版 **大空社出版**
www.ozorasha.co.jp

eigyo@ozorasha.co.jp 東京都東村山市秋津町5-24-13-101 (〒189-0001) TEL:042-306-3383

*書店では扱っておりません。お問い合わせ、お申し込みは下記へ。(専売)国内販売元



パンセ
学術図書販売(株)

〒650-0011 神戸市中央区下山手通6-1-4 オフィス下山手3B
TEL 078-945-7835 FAX 078-945-7886



0120-518-521

E-Mail: contact@tosho-pensee.com <https://www.tosho-pensee.com>